

平成20年7月8日

殿

「日本花き園芸産業史・20世紀」刊行会
代 表 村 田 俊 次
幹 事 長 谷 口 勇
編集委員会委員長 小笠原左衛門尉亮軒

「日本花き園芸産業史・20世紀」刊行に伴う団体・企業編のご執筆のお願いについて

謹 啓

盛夏の候 貴殿におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、私どもは、移り変わりの激しかった20世紀のわが国の花き園芸産業の史実を品目、技術、経営、生産、産地、団体等の動向とそれに携われた先駆者の業績等総合的に記録し、それを後世に托すことにより今後の園芸文化の発展に寄与することが大切であるとの思いから、「日本花き園芸産業史・20世紀」の刊行を企図したところです。

平成19年2月から、編集委員会を9回開催して、別添のとおり「日本花き園芸産業史・20世紀」の構成と執筆要領を取りまとめ、花き産業関係者の幅広い参加・協力を得て、編集・執筆作業に取り組んでおります。(別紙1参照)

これまでの第 本編及び第 分野編の執筆に引き続き、平成20年度では、第 団体・企業編、第 人物編、第 年表及び参考資料リスト編等の執筆を花き業界関係者の参加協力を得て行い、平成20年度末に刊行する予定です。

つきましては、我が国の花き業界で、現在、活動及び営業されている関係団体、関連企業、花き生産者、生花店等につきましては、(別紙2)の様式で、多くの方々にご執筆いただいて掲載することにより、我が国の花き業界の実情を後世へいきいきと伝える貴重な資料になるのではないかと考えましたので、この編集意図に何卒ご賛同いただき、積極的なご執筆方よろしくお願いいたします。

なお、ご執筆原稿は、平成20年10月31日までに、事務局の財団法人日本花普及センターへFAXまたはe-mailで送信いただければ幸いです。

併せて、この刊行事業の経費については、皆様の貴重なご寄付金により賄われておりますので、格段のご配慮を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。(別紙3参照)

なお、本刊行事業は、財団法人日本花普及センターの事業の一環として位置づけされていますので、ご賛同いただける場合の寄付金は、税法上特定公益増進法人に対する寄付金の損金算入の対象として、一般の寄付金の損金算入の限度額と同額まで別枠で損金算入が認められていますので申し添えます。

謹 白

(問い合わせ先)

「日本花き産業史・20世紀」刊行会事務局 財団法人日本花普及センター内
〒1003-0004 東京都中央区東日本橋3-6-17 山一ビル4階
TEL: 03-3664-8739 FAX: 03-3664-8743
E-mail: jfpc@jfpc.or.jp http://www.jfpc.or.jp

(別紙1)

日本花き園芸産業史・20世紀刊行会の概要

平成19年1月に花き産業関係者の有志により設立された日本花き園芸産業史・20世紀刊行会については、財団法人日本花普及センターが事務局として事業推進に当たるとともに、寄付金による刊行資金は、当センターの特定資産として管理運営しております。

(平成19年度までの寄付金総額11,510千円、平成19年度末積立資産10,221千円)

平成20年度は、編集委員会(小笠原左衛門尉亮軒委員長ほか5名)のご指導のもと、その全体構成や今後のスケジュール等の検討を行うとともに、平成19年度からの第本編及び第分野編の執筆に引き続き、第団体・企業編、第人物編、第年表及び参考資料リスト編等の執筆を花き業界関係者の参加・協力を得て実施し、平成20年度末に刊行する予定です。

<日本花き園芸産業史・20世紀の構成>(A4版 約1,200頁)

第 本編(約100頁)

20世紀を以下の4期に区分し、切り花、鉢物、苗木、球根等の主要な花き品目毎に生産量・生産額、生産技術、産地形成、生産者等の動向を総合的に記述

第1章 明治・大正期

第2章 昭和前期(戦前)

第3章 昭和後期(戦後)

第4章 平成期

第 分野編(約600頁)

花き産業の発展・振興に関連する重要事項について、各分野毎に取りまとめ、時系列に記述

第1章 国・地方自治体の花き産業振興対策関係

第2章 種苗関係

第3章 施設・資・機材関係

第4章 卸売市場・仲卸・輸出入関係

第5章 運輸・情報通信関係

第6章 小売・販売関係

第7章 造園・都市緑化関係

第8章 花文化・普及イベント関係

第 団体・企業編(約200頁、400団体・企業)

花き関係団体や企業等の設立経緯、活動実績等を簡潔に記述。

第 人物編(約100頁 200名)

上記の第本編、第分野編、第団体・企業編に関連する主要人物の業績紹介や本人による寄稿等

第 年表及び参考資料リスト編(約100頁)

20世紀における花き産業関係の年表及び主な引用参考文献リストを整理して記載
その他 序文、発刊記念座談会要旨、コラム 等(約50頁)

(別紙2)

「日本花き園芸産業史・20世紀」刊行に伴う

第 企業・団体編の執筆原稿様式

<団体版 執筆原稿様式>

名称			
代表者名			
所在地	〒		
TEL		FAX	
e-mail		http	
設立年月日			
構成会員数		賛助会員数	
設立経緯及び設立目的			
事業内容			
主な活動実績			
その他特記事項			

(記入注意)

- 1 第 団体・企業編に掲載するものは、原則として2000年(平成12年)に存続していた団体・企業とします。なお、その後、統廃合や名称変更等により、実質的に事業を継続している団体・企業も対象とします。
- 2 この様式の記載事項は、団体版の標準的なものであり、団体の組織形態等により、必要に応じて一部変更することができるものとします。
- 3 設立経緯や設立目的は、おおむね300字以内でご記入ください。
- 4 事業内容は、おおむね200字以内でご記入ください。
- 5 主な活動実績は、おおむね500字以内でご記入ください。
- 6 その他特記事項は、おおむね200字以内でご記入ください。
- 7 なお、この第 企業・団体編の執筆原稿様式(ワード形式)は、当センターのホームページ(<http://www.jfpc.or.jp>)からダウンロードできます。

「日本花き園芸産業史・20世紀」刊行に伴う

第 企業・団体編の執筆原稿様式

<企業版 記載様式>

商号・名称			
代表者名			
所在地	〒		
TEL		FAX	
e-mail		http	
創業・設立年月日			
資本金(万円)			
売上高(万円)			
従業員数			
設立経緯及び経営理念			
事業内容及び営業品目			
主な経営実績			
その他特記事項			

(記入注意)

- 1 第 団体・企業編に掲載するものは、原則として2000年(平成12年)に存続していた団体・企業とします。なお、その後、統廃合や名称変更等により、実質的に事業を継続している団体・企業も対象とします。
- 2 この様式の記載事項は、企業版の標準的なものであり、企業の経営形態等により、必要に応じて一部変更することができるものとします。
- 3 設立経緯や経営理念は、おおむね300字以内でご記入ください。
- 4 事業内容及び営業品目は、おおむね200字以内でご記入ください。
- 5 主な経営実績は、おおむね500字以内でご記入ください。
- 6 その他特記事項は、おおむね200字以内でご記入ください。
- 7 なお、この第 企業・ 団体編の執筆原稿様式(ワード形式)は、当センターのホームページ(<http://www.jfpc.or.jp>)からダウンロードできます。

(参考)

第 企業・団体編の記載事例

名称	財団法人日本花普及センター		
代表者名	会長 佐藤安弘		
所在地	〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-6-17 山一ビル4階		
TEL	03-3664-8739	FAX	03-3664-8743
e-mail	jfpc@jfpc.or.jp	http	//www.jfpc.or.jp
設立年月日	平成3年3月25日		
構成会員数		賛助会員数	135(都道府県、企業、団体等)
設立経緯及び 設立目的	<p>平成2年に大阪で開催された「国際花と緑の博覧会」(大阪花博)の準備・支援のため、農林水産省の指導のもと、昭和60年12月に「花と緑の普及促進協議会」が組織された。</p> <p>その後、花博の大成功を受けて、その理念を継承して引き続き花と緑の普及等を推進するため、我が国の花と緑の全ての団体が結集して対応しようとする気運が急速に高まり、民間企業や花き業界関係団体等からの幅広い寄付金によって基金が造成され、平成3年3月に設立された。なお、初代会長は、促進協議会会長で、花博協会副会長でもあった河合良一氏(財団法人日本花の会会長)が就任された。</p> <p>当センターの目的は、花の全国的な普及啓発、調査研究、国際交流等を行うことにより、国土緑化を推進し、もって潤いのある豊かな社会実現に寄与することである。</p>		
事業内容	花の普及活動の実施及び支援、花の普及のための講習会、シンポジウム等の開催、花の普及のための人材養成と情報提供、花に関する総合的な調査研究、花に関する園芸技術・文化を通じた国際交流等		
主な活動実績	<p>ジャパンフラワーフェスティバル(JFF)は、日本最大級の花の普及イベントとして、平成3年から都道府県の持ち回り方式で実施されてきた。各都道府県では、これをきっかけに数万人規模の花の普及イベントが定着する等大きな成果をあげてきた。</p> <p>花の消費拡大については、花き業界関係者の協力を得て、「大切な方の誕生日にお花を贈ろう」等のポスターを作成・配布するとともに、新しいロゴマークによる「花っていいよね。キャンペーン」等を推進してきた。</p> <p>花き業界の関連情報を収集整理して「フラワーデータブック」や「花き情報」等を定期発行してきた。</p> <p>調査研究関係では、農林水産省の助成事業を活用して花き産業振興総合調査、切り花の日持ち試験等を実施してきた。</p> <p>国際園芸博覧会の出展参加については、農林水産省の委託事業を受けて花き業界関係団体と連携して実施した。(オランダのフロリアード1992及び2002、ドイツのIGA1993、中国の昆明1999、タイのチェンマイ2006)。</p>		
その他 特記事項	日本花き取引コード普及促進協議会、ジャパンフラワーセレクション実行協議会、全国花き輸出拡大協議会、全国花育活動推進協議会等、花き業界の共通課題に関係者が一体となって取り組む場合、中心機関として事務局を担ってきた。		

(別紙3)

寄 付 金 申 込 書

平成 年 月 日

財団法人 日本花普及センター
会 長 佐 藤 安 弘 殿
F A X : 0 3 - 3 6 6 4 - 8 7 4 3)
e-mail : jfpc@jfpc.or.jp

住 所
法人名
代表者御芳名
個人御芳名

財団法人日本花普及センターの行う特定公益増進事業推進のための寄付金として、下記のとおり寄付を申し込みます。

記

金 円也

ただし、日本花き園芸産業史・20世紀刊行事業資金として

今後の連絡先となる

ご担当者名：

所属・役職：

T E L :

F A X :

e-mail :

(注) なお、この寄付金申込書は、当センターのホームページ(<http://www.jfpc.or.jp>)からダウンロードできます。